

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (四国)		通信会社（技術）	販売量の動き	・当社の利益率の高いサービス需要が伸びている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・6月は夏セールを1日前倒したこともあり、月次売上では衣料品が伸びた。物産展やお中元ギフトも堅調に推移したことで、総売上は前年を上回った。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月はバーゲンセール月であったことや、天候にも恵まれたこともあり、売上は良好であった。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・4月や5月に比べて販売台数の目標達成率が改善された。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車の受注が比較的好調に推移している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・2～3か月前から比較すると、やや良くなっている。株主総会、梅雨入り、外国船の入港、そういう3つの事象が重なったことが要因として挙げられる。
		美容室（経営者）	単価の動き	・6月は一般的にボーナス期であり、客の動きが良く、商品単価も上がる。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・梅雨で湿度が高いと髪の毛のまとまりが悪いといった理由から、来客数が増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・6月は梅雨に入ったが、土日に雨が降らなかった。また、暑さもそれほどではないということもあり、週末を中心に来客数が多かった。観光客の入込も好調で、夏物の衣料品の売上もかなり伸びた。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・繁華街の空きテナントに居抜きで開店する飲食店が多く、祝い用商品がよく売れた。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は前年同月比でマイナスとなったが、大口注文があったため改善となった。
		百貨店（営業統括担当）	販売量の動き	・クリアランスセールの前倒しの影響により、月計でみると客数、売上共に前年プラスであったが、高額品や化粧品の売上が堅調である一方で、衣料品は苦戦という大きな流れは変わらない。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・春の価格上昇で売上単価は改善しているが、購入点数や来店客数が伸び悩んだ結果、売上高は前年比において厳しい状態が続いている。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・同エリア内のドラッグストア出店により、売上に徐々に影響が出てきた。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・以前と比べて客数の増加が止まった。
		コンビニ（商品担当）	販売量の動き	・今年は例年より猛暑という予報もあり、関連商品の売上増を期待していたが、売上がそこまで伸びていない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・良くもなく悪くもない。客をみるに、高額品を買い控えているのではないかと。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・プレセールがスタートしているが、売上は前年をやや下回るペースで推移している。客単価はそれほど変わらないものの、客数が減少している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材の販売が増えているが、他商品の販売が低調であった。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・映像家電の売上は大型インチを中心に伸びているが、気温が上がらないため、季節商材の伸びがない。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	販売量の動き	・衣料品の売上高が前年比で厳しいが、衣料品以外の売上はまずまずである。	
	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・地元温泉街で旅館をしている。まちづくりの中で、温泉の本館から別館を建てるといったことや、いわゆる耐震補強の工事を行っているといったことが続いており、これまでと状況は余り変わらないというのが現状である。	
	旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・国内需要の動きが若干鈍っているように感じる。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・春のお遍路シーズンが、今年は早く終わってしまった。また、街で乗車する客も動きが少ない。	
	通信会社（社員）	販売量の動き	・年に2回の新製品の発売時期だが、販売量は例年どおりである。	
	通信会社（支店長）	販売量の動き	・特に、大きな変化は見られなかった。	

	競輪競馬（マナージャー）	お客様の様子	・来客数、売上高の推移を見ても横ばいである。人気レース時には一時的に両項目とも増加するが、一般レースに戻れば入場者も売上も減少する状況であり、大きな変化は見られない。
	設計事務所（所長）	来客数の動き	・土地の売買で、売値が強気になっている。
	商店街（代表者）	それ以外	・地方は中心街から量販食料店が消え、映画館が消えた。超高齢化社会と絡まり多くの買物難民が発生している。コンパクトシティ - の強い自覚や推進を徹底しなければ中心街のみならず地方自治体が行き詰まりつつある。
	商店街（事務局長）	販売量の動き	・余り気温が上がらず、季節商材が売れない。また、ここ半年ほど好調であった高級アパレルの売上が不振となっている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏のボーナスは、地方都市では前年より少し良いような状況だが、物価が上昇しており消費は鈍くなっているように感じられる。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・5月以降、売上が伸びない。スーパーや量販店では価格競争で売れているのかもしれないが、店売りが少ない小売専門店では厳しい状況である。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・今年の冒頭より、少しずつ良くなる傾向があったが、ここに来て来客数の伸びが鈍化しているように感じる。前年度比で来客数が下回っているようであり、少し客の動きが読めない状況である。
	コンビニ（店長）	お客様の様子	・購入額が伸びない上に、来店頻度が明らかに減っている。客の財布のひもが相当固いと感じる。
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・3か月前から徐々に客数が前年比で減少する傾向が顕著になり、回復の兆しは見えない。
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・ガソリンや軽油などの燃料が高くなったため、中小企業の収益が厳しくなってきたと感じる。
	x 通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売数が3か月前に比べ45%減となった。
企業 動向 関連  (四国)	食料品製造業（商品統括）	取引先の様子	・省力化を目指した商品を扱っている取引メーカーが安定的な成長を続けている。
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・主力造船に加え、産業用機械関連の受注も増加傾向にある。
	輸送業（経営者）	取引先の様子	・関税措置の動向が気にはなりつつも、世間の雰囲気が良い。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・季節要因では、近頃の暑さで飲料系の荷動きが活発となっている。また、耐震及び免震対策による建て替え工事により、事務所移転の案件もある。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の試算表などや聴取の結果から、全般的に下げ止まりを感じる。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に小売店の店頭販売は余り芳しくないようである。ただし関東、関西の一部はインバウンドなどの影響もあり、好調で全体をならすと、前年並みになっている。
	木材木製品製造業（資材購買）	受注量や販売量の動き	・住宅業界では全般的に原材料及び製品に関して、第1四半期の売上は低調気味であった。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が今までより少ない。今後、海外より国内に力を入れていきたいと考えている。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・製品出荷量について、多少の機種構成の変化はあるものの総量的には大きな変動はなく、したがって収益面に関して特段の増減は生じていない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は例年よりは良いが、まだまだ足りない。
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・例年、この時期は新規受注も少なく、今年度受注の前段処理や前年度業務の処理などを行っている時期である。本年度もこれに変わりない。また競合他社や関連業界団体などはこの時期に研修や福利厚生などの諸活動を行っており、今年度も例年どおり実施されていることから、変わらないとした。
	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・サッカーワールドカップ以降、特に大きなトピックスがない。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の各関与先の決算書及び試算表を分析すると、前年比でほとんど売上、利益共に変わらない企業が増えている。その意味で、変動がないと判断した。

	農林水産業（職員）	取引先の様子	・卸売会社の決算は、前年度に対し多くの会社で取扱金額が下回り、損益計算書で赤字決算となった会社も増えた。その内容を見ると、本業の内容の悪さが目立つなど、数字以上に厳しい決算となったことがうかがえた。また、現在の販売状況を見ても低調な販売が続いており、自然災害待ちといった状況にある。また、燃料価格の高止まりは、消費者の購買意欲にも影響している。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・小売店の売上の伸び悩みに伴い、受注量も減少している。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鉄骨などの部材の値上がりが発電所建設費用を圧迫しているため、厳しい状況である。
	輸送業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・燃料油価格の高騰や労働力不足の影響を受け、運賃や作業料金の値上げを推進する同業者が増えてきつつあり、既存契約業者から安価な運賃及び作業料金で受託をしてくれる別業者への乗換えを模索する企業からの問合せが以前よりも増えた。荷主企業は運送委託の条件として運送業者に対し付帯作業を押し付ける事例も多く、景気の良いときに採算度外視で受託してきた運送業者の中では、適正料金の収受に向けての動きが加速している。
	x	-	-
雇用 関連 (四国)		-	-
	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・事務職人材は多様な業種で求人が出ているが、特殊な職種の求人も増えている印象を受ける。例えば営業職や従業員の送迎バス運転手などの業種では人手不足ははまだ解消には至っていない。
	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・コールセンターを中心とした求人が増加傾向にある。
	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・新卒採用が解禁され、県内企業は例年以上に内定を多く出しているが、辞退も増加の傾向にあり、目標どおりの人材を確保できていない企業がほとんどである。中途採用で不足人員を確保しようとする企業も増えているが充足はしていない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・既に地方企業の求人数は底に近いので、それ以上には悪くなっていない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・正社員での募集は行われているものの、条件の向上は停滞している感がある。
	民間職業紹介機関（所長）	雇用形態の様子	・夏のボーナス時期であり、何社かの人事部長とボーナスについての話をさせていただいたが、どの企業も前年並みとの回答があった。前年度増とはならなかったが、前年並みに出せたことに安どしている様子である。また、給与部分についても前年度並みの上昇率となった。
	職業安定所（求人開発）	それ以外	・5月の有効求人倍率は1.39倍だが、3か月前と比べて0.23ポイント減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
x	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・有効求人倍率が上がる一方で、派遣会社に登録する求職者が減っている。